

杉戸町々々拾遺録

すぎと まちこんじゃくしゅういろく

温古知新

杉戸の歴史をばれ話

第2回

縄文時代のおはなし

今回の話のテーマは、杉戸町に存在する縄文遺跡からは一歩引いて、縄文時代の全体像の解説に焦点を当ててみます。

多くの方がイメージする縄文時代は、石斧を振り回し獲物を求めて野山を駆け巡る原始人の姿かもしれません。しかし、これからは、その視点を少しずらして、縄文時代の新たな側面を少しずつお伝えできればと思います。

縄文時代は、世界的な視点から見ると「石器時代」に位置づけられます。この時代は、土器の使用、弓矢の使用、打製・磨製石器の発達、定住化の始まり、竪穴建物（住居）の普及、環状集落や貝塚の形成、そして植物栽培（半栽培）の始まりなどが特徴とされています。

また、縄文時代は、「草創期」、「早期」、「中期」、「後期」、「晩期」までの6つの時期に細分化されています。化学年代測定法によれば、「草創期」から「晩期」までの期間はおおよそ1万年と推定されています。これは余談ですが、研究者たちは、「縄文時代」という一般的な表現よりも、「縄文前期末葉」や「縄文中期初頭」のように、具体的な時期をピンポイントに示す表現を好む傾向にあります。教科書などでは、最初の数ページで終わってしまう縄文時代。冷静に考えると日本列島の歴史上、最も長く続いた時代なのです。

ここで、あらためて用語の整理をしておきましょう。まず、縄文時代に生活していた人々を「縄文人」、彼らが作った土器を「縄文土器」と呼びます。ここでの「縄文」とは縄目文様のことを指し、縄目文様がついた土器が「縄文土器」と呼ばれ、その土器が多く作られた時代だから「縄文時代」と名付けられました。なお、英語では、「縄文時代」を「Jomon Period」、そして「縄文土器」は「Cord-mark pottery」または「Jomon pottery」と表現されます。

以上が、縄文時代の基本的な概観です。次回は、今の話題から離れますが、幸手市との共催企画展「幸手と杉戸の古墳時代 下総台地の集落と墓」について解説します。

（社会教育課 町史・文化財担当編）



向山遺跡第3次調査第16号住居跡貝層検出状況

6月は彩の国ふるさと学校給食月間



問合せ

学校給食センター ☎ (36) 7050

埼玉県では食育月間の6月と収穫の秋の11月を「彩の国ふるさと学校給食月間」とし、地元産の食材を取り入れた給食による郷土学習を行うなど、地元産食材の一層の活用を図るとともに、町においても地元産食材や郷土食等への理解を通してふるさとへの愛着を深める学校給食活動を推進しています。

食材を提供されている農家さんをご紹介します！

① 6月17日(月)中学校、19日(水)小学校の給食に町特産物の丸系八つ頭を使用したコロッケを提供します。



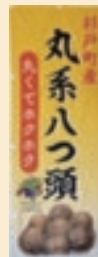
丸系八つ頭出荷組合長の大鷹 敏雄

児童・生徒へのメッセージ

・町特産物のホクホクした食感でほんのり甘い丸系八つ頭をいっぱい食べてね！



丸系八つ頭コロッケ



「丸系八つ頭」は埼玉県オリジナルの品種です。町においても出荷組合の皆さんが丹精込めて栽培しています。

② 長ネギを提供しています。



児童・生徒へのメッセージ

・種まきから収穫まで10か月、手間と愛情をかけて作ったおいしい長ネギをたくさん食べて風邪を予防しよう！

長ネギ栽培の丸源アグリ(株) 栗原 源



UD FONT
by MORISAWA

読みやすい書体であるユニバーサルデザイン(UDフォント)を使用しています。



杉戸町
ホームページ



メール配信
すぎめー



広報スマホ版
マチイロ



杉戸町
公式LINE